

TO 報道関係者各位

FROM 奥能登国際芸術祭実行委員会

DATE 2017.5.30



Photo: Naoki Ishikawa

奥能登国際芸術祭実行委員会は、2017年9月3日(日)から10月22日(日)までの50日間、第一回となる「奥能登国際芸術祭2017」を開催します。この度、第四弾となる参加アーティストを発表しました。また、この度販売を開始しました「作品鑑賞パスポート」前売券の詳細や、能登独特のもてなし文化として受け継がれる「ヨバレ」の雰囲気味わえる飲食メニュー「珠洲 まつり御膳」についてなど、開催まで3ヶ月余りとなった「奥能登国際芸術祭2017」の最新情報をお知らせします。



SUZU 2017
OKU-NOTO TRIENNALE

<芸術祭概要>

奥能登国際芸術祭2017

最涯の芸術祭、最先端の美術

会期:2017年9月3日(日)~10月22日(日) 50日間

会場:石川県珠洲市全域

参加アーティスト:11の国と地域から39組

(2017年5月29日時点)

主催:奥能登国際芸術祭実行委員会

実行委員長:泉谷満寿裕(珠洲市長)

総合ディレクター:北川フラム(アートディレクター)

クリエイティブディレクター:浅葉克己

コミュニケーションディレクター:福田敏也

公式写真:石川直樹(写真家)

公式ウェブサイト:<http://oku-noto.jp>

奥能登国際芸術祭2017 参加決定アーティスト第四弾発表！



(左上から時計回りに)麻生祥子、井上唯、ウー・ジーツォン+チェン・シューチャン、
鬼太鼓座、村尾かずこ、南条嘉毅、竹川大介、坂巻正美

能登半島の先端に位置する石川県珠洲市。古くから海と陸の交流が盛んに行われ、特異な文化が育まれた珠洲は、地理的に孤立していることから、日本文化の源流ともいべき昔ながらの暮らしや風習がいまでも残る町。“忘れられた日本”がそこにあります。連日のように「キリコ祭り」が行われ、奥能登が一年で最も活気づく秋に開催される「奥能登国際芸術祭2017」は、伝統文化と最先端の美術が響き合うアートの祭典。国内外から参加するアーティストと奥能登珠洲に眠るポテンシャルを掘り起こし、日本の“最涯”から“最先端”の文化を創造する試みです。この度、新たに8組の参加アーティストが決定しました。



奥能登国際芸術祭2017 参加アーティスト一覧 (2017年5月29日時点)

浅葉克己(日本) / 麻生祥子(日本) / アデル・アブデスメッド(アルジェリア/フランス) / アローラ&カルサディージャ(プエルトリコ) / 石川直樹(日本) / EAT&ART TARO(日本) / 井上唯(日本) / 岩崎貴宏(日本) / Ongoing Collective(日本) / 鬼太鼓座(日本) / 角文平(日本) / 金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム[スズプロ](日本) / 河口龍夫(日本) / キジマ真紀(日本) / GYOKO YOSHIDA + KINOURA MEETING(日本) / 鴻池朋子(日本) / 小山真徳(日本) / アレクサンドル・コンスタンチノフ(ロシア) / 坂巻正美(日本) / さわひらき(日本) / 塩田千春(日本) / ウー・ジーツォン+チェン・シューチャン(台湾) / リュウ・ジャンファ(中国) / 竹川大介(日本) / 田中信行(日本) / 中瀬康志(日本) / 南条嘉毅(日本) / エコ・ヌグロホ(インドネシア) / Noto Aburi Project(日本) / バスラマ・コレクティブ(スペイン) / ひびのこづえ(日本) / 深澤孝史(日本) / ギム・ホンソック(韓国) / 眞壁陸二(日本) / 村尾かずこ(日本) / 吉野央子(日本) / ラックス・メディア・コレクティブ(インド) / カ五山(日本) / トビアス・レーベルガー(ドイツ) ※表記は50音順

※下線が第四弾の発表アーティストとなります。

各アーティストのこれまでの作品紹介も含めたプロフィールは、以下のURLからご覧いただけます。

<http://oku-noto.jp/artists/>

奥能登国際芸術祭2017 参加予定アーティスト（第四弾発表）プロフィール



麻生祥子（日本）

1982年石川県生まれ、現在金沢市を拠点に、インスタレーションを中心に制作発表している。空（から）の物体感をテーマに「あること」を試みる。2012年粟島アート・イン・レジデンス秋期を経て、2013年瀬戸内国際芸術祭で粟島にて発表。瀬戸内国際芸術祭2016でも、SOKO LABOメンバーとして、粟島にて発表。2016年、台北のバンブーカーテンスタジオにて「クリエイティブタレントプログラム2016」アーティスト・イン・レジデンスへ参加。2017年 Kanazawa Art Port KAPO の推薦にて、千代田3331にて「3331 Art Fair」に参加。



井上唯（日本）

金沢美術工芸大学大学院修了。「織り」や「編み」といった生活の知恵に根ざした技法や、身近にある素材を用いながら、特定の場所に対して新しい何かを存在させるような制作を行う。近年は、市民参加型の制作やワークショップ、舞台美術等も行っている。

主な展覧会

「瀬戸内国際芸術祭2016 / SOKO LABO」

「PORT JOURNEY San Diego?Yokohama」2015（アメリカ、横浜）

「ヨコハマ・パトリエンナーレ2014」（横浜）

「六甲・ミーツ・アート2013 芸術散歩」（兵庫）

「神山アーティスト・イン・レジデンス 2011」（徳島）

「粟島アーティスト・イン・レジデンス 2010 / Autumn」（粟島）



鬼太鼓座（日本）

鬼太鼓座は1969年、故田耕（でん たがやす）の構想のもとに集まった若者達により佐渡で結成。その活動の根源にあるのが、「走ることと音楽とは一体であり、それは人生のドラマとエネルギーの反映だ」という「走楽論」である。

富士山麓・和紙の里東秩父村・会津村と、3カ所の鬼太鼓座合宿所にて、毎朝6時からの10kmランニングに始まる合宿生活を送っている。

また2006年からは「ミュージック&リズムス」と題した活動を開始。竹を利用して創作楽器を作る等、和太鼓のみにとらわれない表現の可能性を追求しながら、「音楽体験を通じて世界中の子供達をつなぐ」試みを行っている。



坂巻正美（日本）

1961年千葉県生まれ。北海道在住。美術家、北海道教育大学教授。1988年東京藝術大学大学院彫刻専攻修了。制作拠点である北海道におけるアイヌや本邦・東北地方のマタギに伝えられてきた狩猟採集の技術や思想は、海を越えロシア極東からベーリング海を経て北米北西海岸へと連なる各地域の北方先住民における生態系文化として共通し、そこに人が生きることの原形を見る。2005年から環北太平洋北方圏の先住民文化について実地調査を開始し、狩猟や祭礼の現場等、土地の記憶をもとに各地で得たオブジェや対話、映像記録等を造形素材に、その現代的意義を考察し、フィールドワークのドキュメントとして作品を発表している。

【個展】

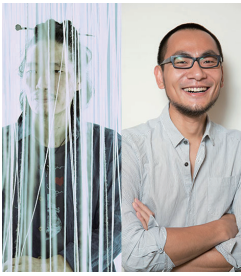
2013年 けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想 cipasir 網走市立美術館

【グループ展】

2012年「水と土の芸術祭2012」／新潟

2016年「上黒丸アートプロジェクト2015」（金沢美術工芸大学主催・珠洲市後援）／珠洲市

奥能登国際芸術祭2017 参加予定アーティスト（第四弾発表）プロフィール



ウー・ジーツォン+チェン・シューチャン (台湾)

ウー・ジーツォン (吳季聰)

1981年台北生まれ、台北在住。2004年国立台北藝術大学美術学院学士号取得。大学院で建築の勉強を進める傍ら、2002年頃から写真や映像を実験的に使用した作品を創り始める。中国の山水画や水墨画など東洋の伝統的なものを取り入れつつ、現

代のメディアで表現される作品は、人間の錯視効果や視覚の限界を利用しながらも、詩的な雰囲気をもたらしている。

2004年、2009年IT Park ギャラリー（台北、台湾）、2013年CFCCA（マンチェスター、イギリス）、2014年サイトギャラリー（シェフィールド、イギリス）などで個展を開催。日本でも2005年「秘すれば花：東アジアの現代美術」、2015年「六本木アートナイト2015」（東京）などに参加している。2003年に台北美術賞（台北、台湾）受賞、2013年にはWROメディアアート・ビエンナーレ金賞（ヴロツワフ、ポーランド）受賞し、国際的に活躍の場を広げている。

チェン・シューチャン（陳淑強）

1969年台湾新竹市生まれ。現在台北に在住。1988年台北私立高等学校芸術学部卒業。主に彫刻と絵画を創作。海に現れた骨、不細工な石、錆びた鉄、そしてとりわけ植物といった自然の素材で作品を作ることを好む。作家にとって、自然の物の型は、自然の混沌を象徴した形であり、「時間」を刻んでいる。分断された時間の記憶を素早く記録した写真のようである混沌は、常に作家を魅了している。主な個展に、「Mountain & Stream」(2017年嘉義茶博覧会、台湾嘉義市)、「Secluded/Psychitecture」(2013年藤の茶室、台湾台北市)、「Silver John」(2012年Show Gallery、台湾高雄市)など。2013年サンフランシスコHeadlands Center for the Artにて滞在制作実施。主な受賞に1993年台北美術展および国際版画デッサンビエンナーレ(台湾台北市)。



竹川大介（日本）

人類学者。沖縄やソロモン諸島・バヌアツ共和国などを主な調査地として、共同体における資源利用や紛争解決に関するフィールドワークをおこなっている。

沖縄では糸満系漁撈民の技術変遷と環境利用に関する研究をおこなってきた。ソロモン諸島では伝統的なイルカ漁の調査を20年以上にわたり継続している。バヌアツ共和国では、調査成果を元に村落開発事業「プトンギプロジェクト」を立案実施した。

2003年に正20-12面体をもとに6つの星を持つ竹を使ったスター★ドームを開発し、公開技術としてウェブサイト上で発表。「きみだけのそら」というタイトルで、ドームを利用したさまざまなワークショップを主催している。2005年の愛・地球博での市民プロジェクトをはじめ、全国各地のイベントに参加。

2008年より学生たちとともに旦過市場に街の緑化「大學堂」を開設し「大學井」「将棋処香車」「たんたんマルシェ」「達人講座」などさまざまな企画を軌道に乗せ、北九州市街地における公共空間の活用に関する教育実践と社会実験を続けている。

2004-2005 愛知万博市民プロジェクト「宇宙船地球号」（プロジェクトリーダー）

2005 テント芝居・水族館劇場北九州公演（制作団長）

2007-2010 JICA草の根技術協力事業「フツナ島村落経済開発」（プロジェクトリーダー）

2006-2011 環境省「石西礁湖自然再生事業支援専門委員会」（専門委員）

2008/8/17 ダンス白州2008「縄文という生命（いのち）」ソロダンス 後山阿南：パートナー 竹川大介（美術・インスピレーション）

2008- 北九州市商学連携商業活性化支援事業補助金による旦過市場・北九州大学商学連携事業「旦過市場地域研究および活性化の拠点『大學堂』の運営」大學堂運営実行委員会（代表）

2009-2013 国営沖縄記念公園海洋文化館（資料素材調査検討委員）（海洋文化館展示アドバイザー）

2010/3/4 北九州演劇フェスティバル2010語る演劇「地域を耕す」竹川大介・長谷川孝治・永山智行



南条嘉毅（日本）

1977年香川県生まれ、和歌山在住。2002年に東京造形大学研究科（絵画）修了。中之条ビエンナーレや水と土の芸術祭、また国内外のアートフェアでも紹介されるなど徐々に活動の場を広げている。越後妻有アートトリエンナーレ2012の土の美術館「もぐらの館」では、土を用いたペインティングをキャンバスや窓ガラスなどにも展開した。

作家はその場所を自ら訪れ、訪れた場所の魅力や歴史や日常などにに基づき、土を採取し、そうして持ち帰ったさまざまな情報を分析して絵画やインスタレーションに落とし込んでいく。風景を主題とした絵画作品の特徴は、絵具で描かれる部分と描かれている現場の土を使った部分とがある。インスタレーション作品は、採取した土を乾燥しふるいにかけ、その分類された土を使って普段とは違った状況をつくり出す。

【主なプロジェクト・展覧会】

中之条ビエンナーレ[2011年、2013年、群馬]、水と土の芸術祭[2012年、2015年、新潟]、越後妻有アートトリエンナーレ[2012年、新潟]、AIR Nordland[2015年、ノルウェー]、いちばらアート×ミックス[2017年、千葉]、VOCA展[2017年、東京]



村尾かずこ（日本）

1965年東京都生まれ。武蔵野美術短期大学卒業。同専攻科で壁画の技法であるフレスコ画に出会う。制作活動をしながら左官のしごとを学ぶ。

土、藁、砂、石灰などシンプルな自然素材の組み合わせで壁に無限の表情が生まれることに魅了される。

フレスコ画を取り入れた左官内装工事、漆喰で作る絵看板、造形作品を制作。

一般の人や子どもを対象に左官材料を使ってものを作る楽しさを体験するワークショップを各地で多数行う。

奥能登国際芸術祭2017 作品鑑賞パスポート 前売券販売開始

「奥能登国際芸術祭2017」作品鑑賞パスポート(以下、パスポート)の前売券の販売を開始しました。パスポートで「奥能登国際芸術祭2017」のすべての作品をご覧いただくことができます。作品展示場所に入場いただく際にパスポートにスタンプを押します。すべてのスタンプを集めた方にはプレゼントをご用意しています。詳しくは後日ウェブサイトにてご案内します。

パスポート表紙



一般用



高校生用



小中学生用

	当日券 (9月3日～10月22日)	前売券 (～9月2日)
一般	2500円	2000円
高校生	1000円	800円
小中学生	500円	300円

特典

- ・チケットが必要なイベントの当日チケット料金がパスポート提示で割引になります。
 - ・会期中に珠州市内の飲食店や宿泊施設などでパスポートを提示すると各種優待サービスがあります。また、金沢21世紀美術館でも展覧会鑑賞料が割引されます。
- サービスの詳細は、パスポートか優待サービス一覧PDFをご覧ください。

※パスポートはご本人に限り有効です。

※パスポート1枚で各作品1回のみ入場いただけます。2回目以降は、

パスポートを提示すると個別鑑賞券が100円引きになります。

※パスポートの再発行、払い戻しはご遠慮ください。

詳しくはウェブサイトをご覧ください

気軽に「ヨバレ」の雰囲気味わえる統一メニュー「珠洲まつり御膳」

連日のように奥能登珠洲全域で秋祭りが行われ、奥能登が一年で最も活気づく秋に開催される「奥能登国際芸術祭2017」。祭りでは、家主が自宅で御膳料理や酒をふるまう「ヨバレ」という能登特有の風習が今も行われています。そこで、気軽に「ヨバレ」の雰囲気が味わえる統一メニューを「珠洲まつり御膳」と銘打ち、珠洲市内飲食店・宿泊施設で提供することとなりました。メニューや料金などの情報は、今後ウェブサイトで随時お知らせいたします。

現地での交通手段について

作品をじっくり楽しみたい方は周遊バス「すずバス」がおすすめです。全4コースを回れば、ほとんどの作品を鑑賞できます。2日間の滞在で全てのコースへの参加が可能です。全4コースに乗車できるお得な通し券もご用意しています。周遊バスのご利用は、事前に各コースのチケットをお買い求めください。

各コースチケット：

大人1,500円、小人500円

全4コースに乗車できる通し券：

大人3,500円、小人1,500円

また、レンタサイクルやその他の交通については、ウェブサイトをご覧ください。

<http://oku-noto.jp/access/inside-suzu>

ご取材・広報についてのお問い合わせ

奥能登国際芸術祭実行委員会事務局 広報窓口

〒927-1214 石川県珠洲市飯田町13字120番地1

TEL:0768-82-7720 FAX:0768-82-7727

E-mail: press@oku-noto.jp